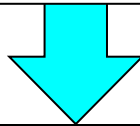


学校教育目標	
自律、尊重、創造、挑戦	
○自ら考え、判断し、行動する生徒	○違いを理解し、他者を尊重する生徒
○豊かな発想をもち、創意工夫する生徒	○変革やチャレンジをし続ける生徒

令和5年度学校経営方針(学力向上に関わる要点)
GIGA スクールに対応して、ICT 機器を用いた学習と従来の学習活動を組み合わせ、「個別最適な学び」と対面学習を融合させた「協働的な学び」の学習モデルの実現を目指す。 特別支援教育の視点を生かし、生徒の「個別のニーズ」に対応した教育活動を推進する。

指導の重点(各教科)
GIGA スクール構想の下、「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質能力が一層確実に育成できる教育を実現する」ことを目標に、教科のねらいに即した指導を充実するとともに、「指導の個別化」及び「学習の個別化」に取り組み「個別最適化された学び」を実現させ、一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の実現に努めていく。また、「学びを止めない」環境(オンライン授業の整備等)づくりにも一層取り組んでいく。 少人数・習熟度別指導等で学力向上及び個に応じたきめ細やかな指導を推進するため任期付短時間勤務教員を計画的に活用する。補充的学習と発展的な学習の推進のために「放課後学習教室」を実施し、生徒自身が学習コンテンツを活用し、学習計画を立て、学力の向上を目指す。 英語科数学科においては、少人数習熟度別指導を取り入れ、「指導の個別化」及び「学習の個別化」を図るとともに、基礎的・基本的な知識・技能の活用による思考力・判断力・表現力等の向上を図る。

指導の重点(総合的な学習の時間)
「SDGs」及び「職業の選択と社会への貢献」を3年間通して探求すべき課題として位置づけるとともに、国際理解、情報、環境、福祉・健康など現代的な諸課題、職業や自己の将来に関する課題などを探求課題とし、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。さらにそれらの学習を充実させるために、他教科との関連を重視する。 「探求的な見方・考え方を働かせる」ために、生徒が日常生活などの疑問や関心に基づいて自ら課題を見付け、情報を収集し、整理分析や考えを共有しながら問題の解決に取り組み、意見や考えをまとめ表現するといった学習活動を発展的に繰り返すよう指導に努める。



授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り「放課後学習教室」や「少人数・習熟度別指導」を取り入れ習熟の程度に応じた学習集団を編成し、「学習の個別化」を図る。	授業の中で論述や発表等の言語活動・話し合い活動を取り入れたたり、学習カードによる学習の振り返りや深化を図ったりしながら思考力・判断力・表現力の向上を図る。	3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」について適正な評価材料を収集する。特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料は目的に鑑み精選する。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
特別支援学級と通常学級との交流及び共同学習をさらに進めるとともに、副籍制度を推進する。ICT を活用し「個別最適な学び」と対面学習を融合させた「協働的な学び」の学習モデルの実現を目指す。	特別支援教育の視点を生かし、生徒の「個別のニーズ」に対応した教育活動の推進をはかる。近隣小学校との連携を充実させ、個別指導計画及び学校生活支援シートの機能が引き継がれる体制を作る。	地域との連携をさらに進め、地域の教育力を生かした豊かな教育活動を展開する。地域行事や福祉団体の行事、児童館まつり等へのボランティア活動を推奨し、社会の一員としての自覚を高め、地域に積極的に貢献する生徒を育てる。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【中学校】

国語科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学習の基礎となる言語能力の育成のため、漢字・語句の習得・習熟を徹底し、協働の基盤となる話す・聞く能力の醸成を期す。 ・生徒が個々の学力に応じて思考力・判断力を伸ばしていけるよう、基礎から発展へと段階的に能力を伸長するため、「個別最適」な指導が協働的な学びと連動した指導計画の策定と実現を目指す。 ・積極的に学習に取り組む態度の向上のため、各単元での振り返りと定期考査の取組への反省を通じて自己調整力の育成を図る。

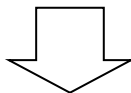
現状分析

区学力調査の結果分析

・校内の平均達成率が、1年生で 68.1、2 年生で66.6といずれも目標値を上回っているが、区の平均からは2.6～4.5ポイント下回っている。特に各学年で「我が国の言語文化に関する事項」及び「文法・語句に関する事項」の達成率が6割前後と低い。言語活動の充実を図っていく必要があることが分かる。

教科指導上の課題

・どの生徒も安心して学ぶことができるよう、特性に配慮したユニバーサルデザインの視点に立った指導を行うとともに、基礎が定着している生徒がさらに能力を伸ばせるよう、各単元で発展的な指導を行い、学習集団全体の総合的な学力の向上を期す指導計画を行い、単元ごとに指導の成果を検証して授業改善に反映していく必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの能力に合った段階的な指導と、一定の到達目標を前提とした交流活動を通じた協働的な学びを、筆記と「ムーブノート」の交流を併用で、オンライン・オフラインの双方で協働的な学びの基礎を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたっての学ぶ力の基礎となる漢字と語彙の習得を授業での反復と、「ドリルパーク」を中心としたタブレットでの家庭学習の併用で、自ら進んで学ぶ力を養う基礎的な習慣を身につけさせる。 ・文章を書く力は、筆記、タブレットを併用し定期的に添削を加え、意識の喚起と能力の醸成を期す。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く力を身に付けるためにGoogleドキュメントやコラボノートなど生徒同士で課題の内容を共有しやすい媒体で文章を書く課題を出して、互いに読み合うことで、文章の表現の仕方や語彙の不足、文法の構成などを見極め、アドバイスし合うことで協働的に学べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に各教材における語句や漢字を使って、短い文章を書かせるなど、テストのためだけの学習にならないように、日常の授業の中で新しい言葉を扱う場面を増やすなどして漢字や語彙の定着を図る。 ・発問やワークシートの工夫をして、生徒自身が学びを深める時間を多くすることで、どのような文章も読み取ることができる力を養う。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・2 学年までに培った個々の能力をもとに、義務教育の集大成となる各単元での取組を通じ、個々の目標に準じた能力の向上への取り組みを協働的な学びの中で高め合う指導を行う。ワークシートの取組と「ムーブノート」による協働的な学びを通じて学びを広げ深め合う学習の充実を期す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習状況の把握と個別指導を行い、生徒の能力に応じた個々の伸長を期すため、授業での指導とタブレットやワークシートを用いて家庭学習の定着と充実を期すため、対象生徒群に応じた指導計画の実施・検証・修正を行う。

(2) 社会科

【中学校】

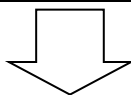
社会科における指導の重点

・社会的事象を資料(グラフや主題図、年表、史料など)に基づいて観察し、社会的な見方・考え方を働かせながら、多面的・多角的に考察し、その結果をまとめ、省察しながら自らの学習を深める活動に重点をおく。多角的な考察を行うために、生徒が個人で考察した成果に基づいて、他者と意見・情報交換しながら協働的な学びを推進し、社会的事象を捉えることができる生徒の育成に重点をおく。

現状分析

教科指導上の課題

・各学年において、授業規律を保ち、学びに向かおうとする生徒が多くいる。特に、電子黒板や板書内容の書き取り、発問への解答は、9割以上の生徒が取り組むことができる。その一方で、資料の読み取りや、社会的な見方や考え方を働かせながら、長文で解答するような力を身に付けさせる必要もある。生徒の個々の実態として、課題把握や既習事項の確認、書字など、多様なパートで困難を抱えている様子が見られ、その対応が不十分である。授業時間中の個に応じた対応と、生徒が取り組み易い、学習課題を設定していくことが課題である。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	・社会的事象に関わる資料の読み取りでは、資料の見方を説明し、個別に課題に取り組めるように、丁寧な導入を心掛ける。また、題意の把握と、課題に正対した解答を導けるように、机間巡視を適宜行う。個別の学習成果は、Google フォームや jamboard を使って情報や意見交換を行うことで、ICTの活用場面を適切に使い分けながら、学習活動を進めていく。	・社会的事象を表す資料から、社会の変化や比較、特徴の発見などを通じて、資料を読み取る基礎的な技能の定着を図りながら、関連する基本的な知識を身に付けられるように授業を展開する。 ・地理的分野では、空間的な広がりや分布、地域の特徴を捉えることで、地域的な共通点や相違点を見出しながら、基本的な知識を身に付けられる授業を展開する。
2年生	・社会的事象に関わる資料の読み取りでは、資料の着目点を明示し、そこから読み取れることをコラボノート等のICTを活用しながら、個々の技能を学級全体で共有し、協働的な学習活動を進めていく。	・授業ごとや単元ごとの振り返りを、習得した知識技能に基づいて記述させることを通して、基礎的・基本的な内容の定着を図る。その都度の評価を通して、生徒の学習を調整し粘り強く取り組む姿勢を支援していく。
3年生	・社会的事象に関わる資料の読み取りでは、自己の「考察や価値判断」の成果を生徒同士で共有し、多面的な意見に触れながら、多様な社会の立場や視点に気づけるような学習活動を展開する。協働学習では、発表形態の他、生徒の意見の一覧性を高めるために、Google フォームやスプレッドシート、リッカート方式の回答結果を表すグラフを活用し、生徒が全体の意見を「俯瞰」しながら、学習活動に取り組むことで、「広い視野に立脚した意見形成」の実践を通じて、生徒の公民的資質の育成につなげていく。	・住民や国民の同意に基づいて形成されたルール(憲法・法律・条例など)や、社会的事象を表すグラフや写真、記録を基礎として、考察や価値判断をするために、用語の持つ意味や背景を説明する。知識を活用して、自己の考察や価値判断を説明する技能を磨きながら、知識の定着を図る。また、「意見を俯瞰」し「広い視野に立脚した意見形成」のために、生徒の意見の相違は、住民や国民の意見の相違と同義であることを捉えることで、多様な人々が暮らす社会に生きるための、公民的資質の基礎を育てていく。

(3) 数学科

【中学校】

数学科における指導の重点

基礎の徹底はもちろんのこと、それを踏まえて「問題を自ら解決しようとする力」を育む場面を意図的に設定し、授業の「わかりやすさ」ではなく、生徒の「ねばり強さ(ねばり強く考える力)」を身につけさせる指導に重点をおく。加えて、友達の考えを伝え合うことで学びあったり、学習の過程と評価を振り返らせたりすることで、よりよく問題解決できたことを実感する機会を大切にしていく。

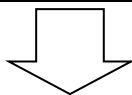
現状分析

区学力調査の結果分析

1学年ではデータの活用の達成率が4割など、全ての項目において全国・区平均をともに下回っている。2学年では区平均との比較では、比例・反比例の達成率が6割など、下回っている項目の方が多いが、全国平均と比べると関数分野以外は全て上回っている。3学年では図形の性質の達成率が8割を超えるなど、全国・区平均をともに上回っている。このことから学年を経るごとに、全国・区平均と比較した達成率が上昇している傾向にある。

教科指導上の課題

- ・数学に苦手意識をもたせないよう、興味をもたせ、学習意欲を高めるような指導をする必要がある。
- ・昨年度は教員の欠員があり、少人数授業が十分に行えなかった。本年度は少人数指導を確実にやっていく。
- ・学力差が大きく、前学年までの基礎が身につけていない生徒への対応が不十分である。授業内での支援や、放課後の補習、個々に合った家庭学習の助言などをしていく必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	ミライシード等を活用し、互いの考え方を共有できるようにする。考え方を広げたり、深めたりすることにより、自己解決能力を高める一助とする。学力調査の結果から、分数や小数を扱うことが苦手である生徒が多いことが分かったので、授業内でも意図的に分数・小数を扱って、普段から慣れさせていく。状況に応じて、キュービナ等で演習を行えるよう、計画的な指導を展開していく。	学習内容ごとの確認テストを継続して実施していく。事前に試験内容を伝達しているので、意欲的に準備が進められるよう、これまで以上に声掛けをしていき、着実に基礎力の向上を図れるようにする。また、用語の反復練習を繰り返し行うことにより、語彙力を高め、自分の考えを言葉で表すことができるようにする。授業中は考える時間をできる限り確保し、丁寧にじっくり課題と向き合えるようにする。
2年生	ミライシードやコラボノートなどのアプリを用いることで、友人の考えを共有して学び合ったり、自分たちが導き出した方法で問題解決できたことを実感したりする機会を設け、学習意欲を高めながら学力を高めていける指導を行っていく。また、関数分野に苦手意識があり、比例や反比例の知識技能の理解が十分でない生徒が多数いることが学力調査の結果からも明らかである。キュービナを使い、苦手分野の復習を家庭学習でも補えるようにすることで、個別最適な学びを実現していく。	授業の導入部で、復習内容の計算プリントを引き続き行っていく。授業内でも既習事項を繰り返し行うことで、問題に慣れさせていくことが大切である。また、単元ごとに各分野での基礎内容のテストを行い、基本的な内容の定着を図っていく。既習事項が身につけていない生徒に関しては、放課後の補習を行うことで基礎的な知識技能の底上げを図っていく。また、家庭での学習を継続的に行っていくよう、定期的に授業で扱った内容に関しての宿題を設定する。

3年生	区学力調査の結果から、3学年は『計算の復習・式の計算』が高い正答率である。これは、ミライシードのドリルパークを活用しながら、問題演習に取り組むことができた結果である。さらに、授業の冒頭に行っている計算プリントで、力を付けていく。また、ドリルパークに、AIによって個別に最適な問題を選択する機能がある。それを活用しながら苦手分野を克服していく。	授業の冒頭で行っている計算プリントは、引き続き行っていく。入試に向けて、基本的な計算問題で点数を落とさない指導をしていく。応用問題に対応していくために、基礎学力の向上に努める。ドリルパークで、適当な宿題を設定して、自ら学ぼうとする態度を育てていく。
-----	---	--

(4) 理科

【中学校】

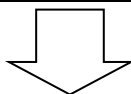
理科における指導の重点

実験観察の内容を充実させ、科学的に探求する力を育む指導を行う。その中で、課題に対して主体的で協働的な学びを行うとともに、実験結果に対する考察を文章で述べるなど、思考力、判断力、表現力の育成にも力を入れる。思考力を育むための知識の習得にも重点を置き、教科横断的な学習を展開する。

現状分析

教科指導上の課題

- ・定期考査や演習問題に関して、知識についての問題は正答率が高いが、思考力が必要な問題に対して、粘り強く取り組む力を身に付けさせるため、授業の中で練習問題の難易度を調整しながら指導する必要がある。
- ・実験の技能に関して補習を中心に個別の指導を行う必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	授業の内容を理解することや、自分のノートに記録を取ることは概ねできている。また、実験を教科書の手順通りに進めることも問題はないが、実験結果から考察を記述することが難しい。そのため、個人の理解度に合わせて、考察のヒントを出すことや、コラボノートを用いて意見の共有などの機会を設けていくことが大切である。	・実験の記録として ICT のカメラ機能を活用する。 ・コラボノートを用いた意見の共有をはかり、考察の文章の書き方を参考にすると共に、多様な考え方に触れる機会としたい。 ・ワークや演習プリントなどを用いて、問題演習の充実をはかり、授業で学んだことの活用をさせる。
2年生	教師の話聞き、ノートに落とし込むことや、授業の内容をその場で理解することはできている傾向にある。しかし、問題を解くにあたり、授業で学んだことを活用することが難しい。そのため、授業内での机間指導を充実させることに加えて、ICT を活用した習熟度の把握をする必要がある。	・基礎的・基本的な力を育むために、授業の中で問題演習を行う。その際に、机間指導を行い、生徒への声かけ指導を充実させる。 ・ミライシードやキュービナを用いて演習問題に取り組む機会を設ける。授業の度に進捗状況を確認し、生徒の理解度の把握を図る。
3年生	・自ら学習を進めることや、授業の中でノートをもれなく書くこと、班で協力して実験を行うことは問題なくできている。特に、実験の実施や考察などにおいては深い段階での協働的な学びがある。その中で自らのわからない内容をノートに書き留めることなどにおいても実施できている。授業の中で見通しを持たせることができるように、到達目標とまとめの明示を行う。	・実験における机間指導の際に、班ごとに助言の内容を調整することにより、班員同士で考えながら実験を進めることができる。 ・復習ノートの作成を通して、自らが苦手としている内容の把握や理解を促進しており、教師に質問する際のよい材料とすることができる。

(5) 音楽科

【中学校】

音楽科における指導の重点

・GIGAスクール構想の実現を基盤とした授業を展開する。音楽は時間変化を伴う特性をもつため、表現の変化を記録する道具としてICT端末を使用し、どこでも誰とでも音楽の学習をし、記録や提出が出来る「個別最適な学び」を実現する。芸術表現は社会の未来像を反映し、発展を促す性質をもつことから、芸術表現を通して人の生き方や多様な他者と向き合い、多様な視点を尊重する豊かな人間性の育成に寄与する。現代音楽の思想やテクノロジーを活用した音楽活動を重点的に取り扱う。

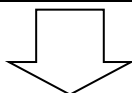
現状分析

教科指導上の課題

1年生・・・音楽を五感と結び付け、思想・表現として捉えることができるよう、現代音楽の視点で鑑賞する能力を身に付けさせ、多面的・多角的な見方・考え方を養う必要がある。

2年生・・・思考力・判断力・表現力に関わる問題の記述力を身に付けさせるために、現代音楽の視点をもたせる必要がある。

3年生・・・演奏表現において、その表現を豊かにするために、多様な芸術の鑑賞と表現活動を通して、表現の引き出しを増やし、組み合わせを試行錯誤する技能を身に付けさせる必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	・ポートフォリオをデータで作成する課題として提示し、成果物をデザインできるようにすることで個別最適化を図る。創作課題を録画提出とし、安全に配慮した上で校外での制作をできるようにする。器楽表現の時間では、ペア活動を取り入れ、鑑賞と表現を結び付けながら技能表現を身に付けるようにする。	・共通事項は音情報の比較を通して学習し、音響概念として理解させる。比較鑑賞や部分鑑賞を行い、表現の変化をフレーズの変化として捉えられるようにする。国語科や社会科、特別の教科道徳、総合的な学習等と連携し、言葉から想像することや、情景を工夫して表現することへの理解を深める。
2年生	・単元のまとめごとに、資料や調べ学習と結び付けた記述課題を設ける。音楽的な視点で自分の考えを記述させることで、音楽活動を文化・思想表現として捉えられるようにする。同時に楽曲を通して文化・思想を学び、世界音楽の構成を捉えられるようにする。レポートの作成及び調べ学習にICT端末を用いて、画像資料による視覚支援をする。	・レコーディング提出課題について、音楽表現の工夫がアコースティック表現とは異なることを指示する。レコーディングに関する知識及び技能を身に付けさせ、音楽表現の工夫とテクノロジーの活用とを結びつけて考えさせる。共通事項の解釈について、多面的・多角的な見方・考え方ができる楽曲を教材として選定する。
3年生	・表現分野においては、プロジェクト型課題を取り入れ、協働的かつ探求的な学習を行う。個人の活動の見取りについて、ポートフォリオのデータ作成及び提出と、作品のセクション化を図ることで、協働的な活動と個人評価との結び付けを行う。表現分野・鑑賞分野共に、現代楽器やこれからの音楽のあり方を考えることができる教材を使用する。	・指導要領上の文化・社会・生活・歴史・多様性等との関わりについて、日本における生活の現状と音楽の関わりと比較させながら学習する。単に歴史的事象や統計的根拠の紹介のみに留まらず、未来音楽の発展や衰退を捉える視点から芸術教材を選定する。共通事項の内容が現代楽器においては不十分である現状を踏まえ、音響効果の理解を深める。

(6) 美術科

【中学校】

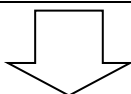
美術科における指導の重点

- ・「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」の育成を目指す。
- ・主体的な創造活動を通して、造形的な視点を豊かに持ち、自己表現の中で美しい物をつくり出す喜びを味わい、よさや美しさが大事な価値となるよう生徒を育成する、

現状分析

教科指導上の課題

- ・ 日常の中で造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術と豊かに関わる資質や能力につなげていける指導が必要である。
- ・ 各学年において、授業規律を保ちながら、自分の心情や考えを生き生きとイメージし、創造性豊かに表現できるように指導していく必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	学習を生活の中の体験と結びつけ、日頃から造形的な視点に立てるように自分の考えを記述させるなど、どのような考え方で思考するかということを考えさせる。	課題に対して各自が目標を持って取り組めるよう、用具の特性を知り技法を学ぶと同時に、参考作品を示し、意欲の向上を目指す。
2年生	課題の完成時、自分の作品内容を客観的に振り返り、また他者と比較することにより自分自身の課題を発見し、より美しいものへの理解を深める。	作品に対する向上心や良い作品を良いと思える素直な気持ちを再確認し、本来あるべき授業姿勢をめざす。また優秀作品の展示など、意欲が高まるよう相互講評などを行う。
3年生	美術における基礎知識の再確認をし、造形的な視点をもって身の回りの様々なものからよさや美しさを感じ取れる生徒を目指す。また、美術史の学習から美術文化を知り、受け継がれてきた美意識や創造的な精神などを感じ取れるよう促す。	自分自身の創作活動を振り返らせ、作品完成を目指し、見通しを持たせる。個別指導を繰り返しながら生徒の課題や目標を見出す。

(7) 保健体育科

【中学校】

保健体育科における指導の重点

・体育や保健の見方・考え方をを用いて、課題を発見し、合理的な課題解決に向けた学習過程を実現していく。その中で、GIGAスクール構想の考えを受け、ICT機器等を調べ学習や、振り返り活動、グループ学習での情報共有の場面に多く活用していく。ICT機器等の活用を定着させていくことで、運動量の確保や運動習得場面の時間をより充実したものにす。個の技能の習得の場面と集団で学ぶ場面の2つの時間の割合を単元や生徒たちの実態によって工夫していき、技能の向上や教え合うことの重要性について学ぶ授業を実践する。

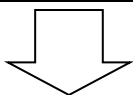
現状分析

教科指導上の課題

1年生・・・集団行動を確実にいき、自発性、協調性とけじめのある行動を身に付けさせるため、協働的な学びの重要性に気付かせ、教え合いの視点をより意識させる指導を行う必要がある。

2年生・・・体育や保健の見方・考え方をを用いて、思考力・判断力・表現力の力を十分に発揮し、他者と協働的な学びができる生徒が少ない。そのため、協働的な学びの重要性に気付かせ、教え合いの視点をより意識させる必要がある。

3年生・・・普段あまり動かさない体の部位や動き方、しなやかな動きなど、基礎的な体の使い方を習得することを苦手とする生徒が多い。多様な運動活動を通して、運動時間を増やし、組み合わせを試行錯誤する技能を身に付けさせる必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	・個別最適な学びについては、Googleclassroomを活用し、自己や他者の動きを動画に撮ることで、課題点や出来映えの確認を行い、課題解決に役立てる。 協働的な学びについては、学び合い、助け合い、支え合いの活動を毎時間取り入れ、学習用 iPad も活用し、効率的に学習効果を高める。	・どの単元の学習においても、単元の特性を取り入れた準備運動や補強運動を毎回の授業の冒頭で実施し、基礎体力の維持・増進を図る。また、グループ学習（ペア・トリオ）を多く取り入れ、場面に応じて教え合ったり、説明する練習の場を増やしていき、基本的技能の習得と定着を図る。
2年生	・個別最適な学びについては、学習用 iPad を活用し自己の動きを撮るだけでなく、技能が高い生徒や技能ポイントが載っている動画を参考にすることで、学びを深めていく。 協働的な学びについては、学習用 iPad を活用しながらも、グループ学習（ペア・トリオ）を多く取り入れ、学習効果を高める。	・どの単元の学習においても、単元の特性を取り入れた準備運動や補強運動を毎回の授業の冒頭で実施し、基礎体力の維持・増進を図る。また、学習カードや ICT の活用（iPad の活用）により、自分の体力や技能の到達度を把握させ、より一層向上心を高めていき、どの単元においても、自分自身の課題を客観的に捉え、技能の習得と定着を図る。
3年生	・個人の技能向上については、ポートフォリオのデータ作成及び提出をすることで、自分の技の課題点や出来映えの確認を行い、繰り返しの練習の中で役立てる。協働的な活動では、他者との情報共有や分析等を行う場面において、ミライシードやコラボノートなどのアプリを用いて教え合い、学び合いの時間を効率的に確保する。	・どの単元の学習においても、単元の特性を取り入れた準備運動や補強運動を毎回の授業の冒頭で実施し、基礎体力の維持・増進を図る。また、各単元の体の動かし方等のポイントをパワーポイントや映像を使うことで視覚情報からもいつでも、どこでも得ることができ、反復し体現しやすくし基本的技能の習得と定着を図る。

(8) 技術・家庭科

【中学校】

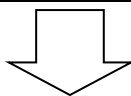
技術・家庭科における指導の重点

- ・技術改革や社会の構造が大きく変化していく中で質的な豊かさを伴った個人と生活の成長につながる新たな価値を生み出すことができる生徒の育成をする。
- ・ものづくりの文化や伝統的な技術の伝承と技術革新とそれを担う職業への関心、他者と協働して粘り強く物事に取り組み、安全な生活や社会作りに貢献しようとする生徒の育成をする。

現状分析

教科指導上の課題

- ・普段の生活や社会の中で体験や発見した事を学習につなげていく指導が必要である。
- ・学習した事から生活の営みの中で物の見方や考え方を工夫し課題を解決しようとする指導が必要である。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	・学習を生活体験と関連付け、生活を工夫し創造し課題を解決するために伝統的な技能や工夫が今の生活を向上させてきた事を理解して実物に触れる機会や例示・実験で生活との関連を深められるようにiPadを活用し google スライドでのポートフォリオ作成や google フォーム等で振り返りながら指導をする。	材料と加工の技術において、材料の特徴を理解し、加工方法を知り、工具の使い方の定着を図る。そのため正しい使い方を書画カメラで写しだしながら間違えた使い方実践し安全性を考えさせる。実物や映像で理解を深めさせる。
2年生	・生活を通して物の見方や仕組みを観察し生活を工夫し向上させるための学習を進め、課題を発見し手順を考えて解決しようとして学習できる生徒を目指す。 ・生活体験の中から課題を発見し解決するための方法と手順を自ら考えられるようにiPadを活用し google スプレッドシートで課題を提示し指導する。	生物育成の分野では身の回りの育成技術を理解し、生物育成は自分たちの一部であることを深める。また、生物育成を行い、成長の変化を目で見てわかるように記録することで振り返りを行い、課題を発見し、解決することができるようにする。
3年生	・必要な基礎知識や技術をしっかりと指導して理解を深めさせる。技能の適切な利用と知識の活用方法の習得の時間を確保しコンピュータ技能と知識の定着を図る。	情報技術の分野では、当たり前となったインターネット技術やコンピュータ機器を実際に触れ、行うことにより理解を図る。また、プログラミング技術の習得のためにシステムの構築を理解を深める。

(9) 外国語科

【中学校】

外国語科における指導の重点

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報や考えを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができるように、4技能5領域をバランスよく取り入れた指導を心がける。また、ICT を効果的に活用して、個別の学習場面を設けたり、自分の意見や考えなどを仲間と共有して意見交換を行ったり互いに学び合う場面を設けたり、指導方法を工夫する。

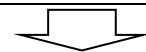
現状分析

区学力調査の結果分析

2年生は観点別では「思考力・判断力・表現力」の達成率が4割、「主体的に学習に取り組む態度」の達成率が3割と、目標値を下回っている。問題の内容別でみると、「語形・語法の知識・理解」が達成率5割、「場面に応じて書く英作文」が達成率2割と、大きく下回っている。3年生は観点別ではどの観点も目標値を上回っているが、問題の内容別でみると「リスニング(さまざまな英文の聞き取り)」が7割、「語形・語法の知識・理解」が5割と目標値に及ばなかった。引き続き、基礎的・基本的な言語活動を充実していく必要がある。

教科指導上の課題

2年生、3年生ともに「語形・語法の知識・理解」の達成率が目標値を下回っている点から、1年次の学習から基本事項を繰り返し学習する機会を設け、基礎・基本の定着に努める。また、2・3年次では、新出文法導入する際に既習事項と関連付けた指導をしたり、本文の中で既習内容にも触れて復習する機会を設けた指導をする必要がある。また、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように、ICT 機器の活用やペアやグループでの学習を取り入れるなど学習形態の工夫をする。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	ミライシードを有効活用し、生徒一人ひとりの学習段階に適した問題を解かせることで、学習内容の定着を図る。また、ミライシードのオクリンクやコラボノート等で生徒のエッセイ等を情報交換し、協働的な学びを実践していく。各授業で使うワークシートには、生徒が学習内容をどのくらい理解できたのかを記入する欄を設け、振り返りをさせていく。	○文法・語法については、新しい内容を導入する際に、既習事項と関連付けながら導入し、繰り返し復習・整理する機会を意図的に設定する。 ○基礎・基本の定着を図るために、学習した内容の復習を行いつつ、確認テストを実施する。 ○文法事項を学習する際は、学習した表現を用いて自己表現活動を行う。また、単元の終わりにおいても、各単元で学習した表現を使う学習を再度設け、より定着を図る。
2年生	・ペアやグループでの言語活動をした後に、話したことを書いたり活動の内容を振り返ったりする時間を作り、話す活動と書く活動を関連付けていく。 ・ミライシードのオクリンク機能で話す活動をペアで録画し合い、活動を振り返り個別の学習に生かす。 ・ミライシードのドリルパークを帯活動や家庭学習に取り入れ、1年生からの学習を自分のペースに合わせて振り返られるようにする。	・パフォーマンステストに向けて、生徒それぞれの個別の目標を設定し達成できたかを振り返ることで主体的に学習する態度の向上を図る。 ・単元ごとにまとめテストを行い、既習の文法・語句の定着を図る。 ・前時の復習の時間を増やし、取り組みの様子やワークシートの記述内容をチェックし、理解度を図る。
3年生	・ミライシードのドリルパークや Qubena での問題配信、また副教材の学習アプリを用いた学習を通して、生徒各自が自分の学習状況に合わせて問題を選択して取り組ませることで、個別最適な学習を実践する。 ・ミライシードのオクリンクを用いてパフォーマンスの動画や画像を友達と共有し合ったり、自身の取組を振り返ったりすることで、次の学習調整に役立てる。	・新出文法導入の際には、既習事項と関連付けることで意図的に繰り返し学習する機会を設けるとともに、表現の幅を広げることに意識を持たせながら基礎・基本の定着を図る。 ・単元の中で適宜ミライシードや Qubena を用いて、文法等の基本を復習する時間を設定する。 ・本文を学習した後の Retell に加え、自分の意見や考えなどを述べる活動を増やし、「思考力・判断力・表現力」を高

		める工夫をする。
--	--	----------

(10) 特別の教科 道徳

【中学校】

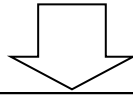
道徳科における指導の重点

- ・ 集団の一員として、よりよく生きていくために、自分の属する集団の意義を十分に理解し、生徒一人ひとりに自らの役割と責任を果たすという自覚を持たせ、自らの居場所となる集団を形成させる。
- ・ 規律ある生活習慣の育成・定着を図り、正しく判断し行動できる道徳的な心情や実践力を育成する。
- ・ 法やまじりの意義の理解を深め、自分の将来に、よりよい生き方を見通した道徳教育を実践する。

現状分析

教科指導上の課題

- ・ 導入から題材の把握等、生徒がイメージしやすいように展開することはできている。ただ、繰り返し発問や自らの意見をワークシートに記入することに関しては、正解を求めてしまい、自らの素直な意見を記述できない傾向にある。そのため、道徳の授業の雰囲気作りや道徳的な課題を自分自身の問題として捉える「考え議論する道徳」の実践に向けて展開する必要がある。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- ・ パワーポイントや視覚教材を用いて、導入を充実させ、教材のイメージや興味関心を持ちやすくする工夫を行う。
- ・ コラボノートなどの ICT の活用を充実させ、他者の考えや意見に触れて自らのことと合わせて考えることができるようにする。
- ・ 実物教材を用いて、興味関心を抱かせるとともに、経験を重視し、学習活動の展開を行う。
- ・ 議論する道徳の実践に向けて、生徒同士の間関係の把握に努めるとともに、教材研究を充実させ、学年及び学校全体で共通のテーマで道徳を行う機会を設ける。